

令和5年度日本薬剤師会学校薬剤師部会  
学校環境衛生検査技術講習会報告千葉県学校薬剤師会  
副会長 小野武弘

8月20日(日) 横浜薬科大学にて開催され、今回の技術講習会テーマは、「飲料水・雑用水及び水泳プールの施設・設備の管理状況」として、各県から1名、合計45名の学校薬剤師の先生方と、日薬学薬部会役幹事・学術WGと合わせ、総勢80名の出席で午前10時30分から開催されました。

横浜薬科大学は旧横浜ドリームランド跡地に建てられ、特に図書館棟は21階建てのタワーになっています。横浜ドリームランドが運営していたホテルエンパイアを改装したこの建物は、全国の大学にはあまり見られない珍しいものでした。

講義1では文科省健康教育調査官 鈴木貴晃氏から「学校環境検査衛生基準における飲料水・雑用水および水泳プールの管理について」と題した講義があり、1. 飲料水の衛生管理に関する法令、2. 水質及び施設・設備に係る学校環境衛生、3. 水泳プールに係る学校環境衛生と題した講義を受けました。

学校健康安全法では、学校における児童生徒等及び職員の健康保持増進を図ることを目的とし、学校保健計画を策定することが義務づけられています。施行規則で、環境衛生検査は毎学年定期的に基準に基づき行わなければならないとされ、必要時には臨時に、また学校においては日常的な点検を行い、環境衛生の維持または改善を行わなければならない、とされています。また、学校薬剤師の職務執行の準則として 1. 学校保健計画及び学校安全計画の立案に参加すること、2. 環境衛生検査に従事すること、3. 学校環境衛生の維持及び改善に関し、必要な指導及び助言を行うこと、とされています。この3点が、学校薬剤師が最低限行わなければならない職務であ

ることを改めて認識させられました。

実習として、日薬学薬部会幹事・愛知県学校薬剤師会会長の木全勝彦氏から「飲料水の施設管理(受水槽等)及び雑用水等の管理について」と題した講義があり、例として、北海道羅臼町の高校で、受水槽にネズミの死骸が発見された事件が紹介されました。原因として、オーバーフロー管の排水口にある防虫網が劣化で壊れ、そこからネズミが侵入した可能性が高いというものでした。定期点検でこの箇所不良があれば点検した業者が網を応急設置してくれますが、その後も修繕されず、応急設置した網も失われ、ネズミが侵入してしまったそうです。清掃業者からの報告書をよく吟味し、必要な修繕は都度行わなければならないという教訓です。受水槽は学校内でもあまり目立たないところに設置されていることが多く、学校でも日常点検を行わなければならないという意識が希薄になりがちであり、定期清掃も業者任せになりがちです。その為、雑草などが繁茂し、つる性植物が受水槽内に侵入する事例もあります。受水槽はコンクリート地の上に設置するのが基本ですが、そうでない場合は特に雑草対策をこまめに行う必要があります。これらの事例から、設置状況に関わらず、普段の定期検査と日常点検が非常に重要になり、日常点検を学校に浸透させることが学校薬剤師の職務として必要になっています。

講義の後、大学に設置されている受水槽の見学や、高層建物(21階)である図書館棟に必要な送水ポンプの見学などを行いました。高層建物では高置水槽に送水する場合、途中階にも水槽とポンプを設置し、効率よく送水する仕組みが必要で、その一例を見る

ことができ、座学よりも一層深い理解ができました。

講義2では、同じく木全氏より「水泳プールの衛生管理～水質及び施設設備の適切な管理」と題した講義があり、衛生基準に基づく検査、ろ過機等の設備の説明、塩素剤や浄化剤の概要説明と使用方法などの講義がありました。飛び込み時にプールの底に頭を打ち付けて下半身不随になってしまった事故、ふじみ野市の市営プールで吸水口の柵が外れていて女児が吸い込まれて死亡した事例が紹介され、それぞれの事故のメカニズムとすべきであった対策などが紹介されました。水深が浅いプールでは飛び込み禁止と教員らによるプール監督業務は非常に重要です。また設備点検として特に吸水口の柵の設置点検は死亡事故防止の為に毎日の点検が必要です。これらの理由により、学校薬剤師は定期検査はもとより、日常点検をしっかりと行うことを管理者に説明し、これが行われていることを確認することが今後重要な職務であることを痛感させられました。

その後、スモールグループディスカッション (SGD) が行われ、課題として ①飲料水と雑用水の衛生管理 ②プールの衛生管理、について話し合われました。雑用水を使っている学校はまだ少ないですが、管理が必要であることを学びました。また、冷水器の衛生管理も話題に上り、自動洗浄機能のない冷水器は使用状況、特に長期休暇などで使用されない期間が長い場合は汚染される可能性が高く、日常でも吐出口が上向きになっている為、そこから汚染される可能性も指摘されました。飲む前に数秒流してから飲むなど工夫が必要との意見も出ました。

全国から集まった学校薬剤師から、各地域における問題が盛んに意見交換され、寒冷地の水道管理など特徴的な話題も上がり、非常に勉強になった SGD でした。

今回の講習会では、今までなんとなくだった知識が明確になり、アップデートできた有意義な講習会となりました。